

Information★学校紹介

クラブ・サークル | 馬術部



馬術競技は乗り手の気持ちだけでうまく演技出来るものではなくて、人と馬が呼吸を合わせることが最も大切なエキサイティングなスポーツです。

競技には、障害物を飛越する“障害馬術”と決められた演技を行う“馬場馬術”があります。どの競技も人と馬の心が通じ合うよう、普段から愛情を持って世話をしていく中で得られる信頼関係を築いていくことが最も大切です。馬というハートを持ったかけがえのないパートナーと共に、全日本学生馬術競技会などで数々の輝かしい成績を収めてきました。彼らと毎日付き合うことで、今まで気づけなかった自分を発見するってこともあるんですよ!!

馬術部は今年で創部50周年を迎えます。私達は、これからも人馬一体となって飛翔していくことを誓います。

代表 奥村 紀也
(三重大学生物資源学部 資源循環学科)
 [HP]* ただいま、準備中

Information★スポット

津なぎさまち ~津からつながる“世界のまちかど”~

“津なぎさまち”は、2005年2月に津市賢崎海岸に中部国際空港セントレアへの海上アクセスルート港として開港されました。近畿自動車道伊勢線 津インターチェンジを降りて、津の中心市街から約10分程度車を走らせると、伊勢湾に突き出た「津なぎさまち」旅客ターミナルに到着します。“津なぎさまち”に植えられたフェニックスが潮風に揺れています。

また、青々とした芝生にはベンチが置かれ、憩いの場、癒しの空間としてのんびりと時を過ごす市民の姿もみられます。



Photo/浅野 勇真(三重大学人文学部 社会科学科)

詳細は、[URL] <http://www.nagisa.city.tsu.mie.jp/>

江戸橋常夜灯

近鉄の江戸橋(三重大学前)駅を降り三重大学に向くと、駅名の由来となった「江戸橋」に行き着きます。この橋は、修理工事のお世話を受けながら、二十年來の大学への通勤路の中にその珍しい木造橋の姿を維持し続けています。

代で藩主が江戸に向うとき、藩士の見送りはこの橋までで、ここを渡れば江戸への「第一歩」という意味で名付けられたそうです。さて、この橋の手前に立つ江戸橋常夜灯は高田本山道と書いた道標とともにひっそりとその姿を残しています。

江戸時代には街道沿いに常夜灯がいくつも建てられ街灯の役割を果たしていました。この常夜灯も日が落ちると灯りがとまり、一晩中旅人の安全を見守っていました。火がなくなった常夜灯は、今も三重大学へ向う人々と絶え間ない自転車・自動車の往來を見守り続けています。

〈P&M〉



歴史街道シリーズ

本誌お問い合わせ先

三重大学総務部総務課広報室広報係

〒514-8507 津市栗真町屋町1577
 TEL 059-231-9789 FAX 059-231-9000
 ホームページ <http://www.mie-u.ac.jp/>
 E-mail koho@ab.mie-u.ac.jp

*ご意見をお寄せください。

三重大 X[えっくす] vol.2

平成17年6月1日発行

- 発行/三重大学広報委員会
- 編集/三重大学広報誌編集委員会
〈委員長〉亀岡孝治・〈人文学部〉小川眞里子・〈教育学部〉岡田博明
 〈医学部〉吉田利通・〈工学部〉塩見 繁・〈生物資源学部〉吉岡 基
 〈三重大学総務部総務課広報室〉船木将身・中西一美・高倉美佐子・井上真理子
- 印刷/有限会社アートピア

©禁無断転載 本誌掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。

《編集後記》

三重大学広報誌「三重大 X[えっくす]」を最後までお読みいただきありがとうございました。

地図を片手に、研究室の扉を叩く編集部員。扉の中では、「へえ〜」「ほお〜」の連発。知らなかった…こんなにも凄い研究、こんなにも凄腕、どの扉の向こうも凄いじゃないですか!! 「よし、この室の“へえ〜”を皆にお見せしたい。お話したい。」と、麦わら帽子に手袋はめて、毎日学内を駆けめぐっています。

〈Kuri-chu〉